

令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号 230

江戸川区立鹿本中学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差						
学年	第3学年			学年	第1学年			第2学年		
年度	国語	算数	合計	年度	国語	数学	英語	国語	算数	GTEC
令和12年度の目標				令和12年度の目標						
令和11年度の目標				令和11年度の目標						
令和10年度の目標				令和10年度の目標						
令和9年度の目標				令和9年度の目標						
令和8年度の目標	0	-3	-3	令和8年度の目標	-2	-2	0	0	0	+2.4
令和7年度の結果	-1	-6	-7	令和7年度の結果	-4.8	-3.4	-0.6	-1.2	-0.5	+2.4
令和6年度の結果	-7	-9	-16	令和6年度の結果						
令和5年度の結果	-15	-12	-27	令和5年度の結果						

年度	令和8年度		
内容	成果と課題	目標	目標達成に向けた取組
学校全体	<p>【成果】 全国学力調査の結果は、年々目まぐるしく平均に追いつきつつある。今後も基礎学力向上に向けて全校をあげて取り組んでいきたい。</p> <p>【課題】 探求的活動の取組が欠けているように分析できる。単元計画を見直してしっかり設定し、定着しているかを振り返りながら授業を進めていく必要がある。</p>	<p>探究的活動を単元計画に位置付け、思考力・判断力・表現力の育成を図るとともに、家庭学習の習慣化により基礎学力の確実な定着（学習コンテスト達成率90%以上）を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度はじめに家庭学習の手引きを全教科作成し、ガイダンス等で浸透させ活用させる。 ・生活リズムを見直す機会を設け、家庭と連携を取りながら生徒の学習機会を確立させる。 ・漢字コンテスト・計算コンテスト・英単語コンテスト、年3回の学習コンテストに対して、学校全体で意欲的に取り組めるように企画して基礎学力定着を目指す。 ・定期考査への取組や、単元別テストへの意欲を引き出す講座を設けて取り掛かりとする。
第1学年	<p>【成果】 校内で取り組んでいる学習コンテストに学年をあげて大変意欲的にのぞみ、90%を超える高い達成率をあげている。また、家庭学習を提唱し、担任が毎日の生活記録で内容を確認する等、細かな取組も行っている。</p> <p>【課題】 区学力検査の国語科の結果を見ると、AB層の割合が低い。発問を工夫するなどして多様な生徒の力を伸ばせるようなバランスの良い授業を展開すべきである。また、思考・判断・表現の領域が比較的苦手なようである。基礎的な知識技能を使ってより深い考えを引き出せるような授業を工夫すべきである。</p>	<p>国語科におけるA・B層の割合向上（前年比5%増）を目指し、主体的・対話的で深い学びを通じた記述力の強化を図る。家庭学習の定着により基礎知識の活用力を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度はじめに家庭学習の手引きを全教科作成し、ガイダンス等で浸透させ活用させる。 ・生活リズムを見直す機会を設け、家庭と連携を取りながら生徒の学習機会を確立させる。 ・漢字コンテスト・計算コンテスト・英単語コンテスト、年3回の学習コンテストに対して、学校全体で意欲的に取り組めるように企画して基礎学力定着を目指す。 ・定期考査への取組や、単元別テストへの意欲を引き出す講座を設けて取り掛かりとする。 ・学習が遅れている生徒に対しては、適宜、補習等を行い、全教員である。
第2学年	<p>【成果】 英語科では、全国平均を2.4点上回ることができた。基礎も応用も全国平均を上回り、特に「聞くこと」は良い結果を残せた。数学も国語もほぼ平均点をとることができた。</p> <p>【課題】 国語科の応用的な力が若干足りない結果が出た。様々な学習活動の中で、よりハイレベルな発問を工夫し、「読むこと」に慣れさせていきたい。数学・英語においてもAB層が少ないので、全体的な底上げができる指導を心がけていきたい。</p>	<p>国語科の「読むこと」及び応用問題の正答率向上を図る。数学・英語においては、個別最適な学びを取り入れ、A・B層の拡大と全体的な学力の底上げを実現する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度はじめに家庭学習の手引きを全教科作成し、ガイダンス等で浸透させ活用させる。 ・生活リズムを見直す機会を設け、家庭と連携を取りながら生徒の学習機会を確立させる。 ・漢字コンテスト・計算コンテスト・英単語コンテスト、年3回の学習コンテストに対して、学校全体で意欲的に取り組めるように企画して基礎学力定着を目指す。 ・定期考査への取組や、単元別テストへの意欲を引き出す講座を設けて取り掛かりとする。 ・学習が遅れている生徒に対しては、適宜、補習等を行い、全教員である。
第3学年	<p>【成果】 過去3年間の全国学力調査の結果がめざましく上がっている。落ち着いた学習環境のもと、継続的な学習活動が出来ているように思う。</p> <p>【課題】 AB層が少ないこと、「読むこと」「思考・判断・表現」の領域が比較的弱いことがみとれる。全体的な底上げができる指導を心がけていきたい。</p>	<p>全国学力調査の国語・数学において、東京都平均との差を解消することを目指す。ICTを活用した個別最適な学びと論理的思考力を高める活動を連動させ、A・B層の割合を前年比5～10%向上させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度はじめに家庭学習の手引きを全教科作成し、ガイダンス等で浸透させ活用させる。 ・生活リズムを見直す機会を設け、家庭と連携を取りながら生徒の学習機会を確立させる。 ・漢字コンテスト・計算コンテスト・英単語コンテスト、年3回の学習コンテストに対して、学校全体で意欲的に取り組めるように企画して基礎学力定着を目指す。 ・定期考査への取組や、単元別テストへの意欲を引き出す講座を設けて取り掛かりとする。 ・学習が遅れている生徒に対しては、適宜、補習等を行い、全教員である。